

# 信頼と事前の危機管理



元茨城県企業局長  
元茨城県土木部長

## 渡邊 一夫 氏

### 行政と企業の絆が何より大切

長澤「企業公社の対策本部も、企業局と同じフロアに隣り合う形で設置しました。常に企業局と企業公社が一体となって会議をしたため、迅速で無駄のない情報伝達ができました」

■復旧に向けて、まずどのような対応を行ったのでしょうか

渡邊「震災により県の11の浄水場は全て被害を受け、管路についても130カ所被害が確認されました。水道は住民の命に直結するライフラインであり、また工業用水が止まることは企業の存亡に関わります。一秒でも早く復旧することを何よりも優先し、浄水場の被災状況や送配水管の漏水状況の確認、漏水復旧工事への着手、地元建設業者への協力要請をすぐさま行いました」

■全国的に大きな被害が生じた大災害のため、資材や燃料の確保にも苦労されたのではないのでしょうか

渡邊「復旧工事では人材確保とともに資材の確保も重要となります。幸い、企業局では漏水復旧金具の備蓄を以前から行っており、これが早期復旧に大きく役立ちました。さらに補修資材を製造するメーカーにも非常時に備えてストックの確保を要請していただくのを要請しました。メーカーの方々の協力に、改めて感謝を申し上げます」

■事前の危機管理が大いに役立ったという話も聞いています

塚田「東日本大震災のちょうど1年前に発生した桜川市の漏水事故を教訓とし、さまざまな対策を講じていたことも大いに役に立ちました。具体的には、まず管路の補修資材を備蓄するための備蓄基地を県内3カ所に設けました。メーカーへ補修資材の備蓄を要請したのもこの漏水事故が契機でした。また給水タンクの確保も行いました。さらに、災害時協力員制度も創設しました。災害時協力員制度とは県内に居住し、県企業局で10年程度勤務した経験のある方に対し、災害発生時に応援をお願いするものです。いずれも東日本大震災発生時に大きな助けとなりました」

■特に被害が大きかったという鯉川浄水場(神栖市)の復旧についてお聞かせください

渡邊「鯉川浄水場の復旧は地元建設業者の皆さまと大手ゼネコンの協力がなければ不可能だったでしょう。現場に駆け付けて被害状況を目の当たりにした瞬間、経験したことのない未曾有の事態であると実感しました。なによりスピードが求められる緊急復旧は、資材の確保や人材の調達に機動力を発揮できる大手ゼネコンにお願いしました。速やかに現地調査や資材の手配をしていただき、人海戦術で共同溝などのヘッドの撤去を手作業で行い、大変な苦勞をおかけしました。しかし、そのおかげで4月末の連休前に通水することができました」

■震災発生直後のことをお聞かせください

渡邊「まず、東日本大震災の余震である大きな地震が発生しました。大きな揺れを感じた中で、あの2011年3月11日のことをまざまざと思い出しました。本日に大変な災害であり、お世話になった地元建設業者の皆さま、水処理メーカー、設備メーカー、電気機械メーカーの方々に改めて感謝を申し上げます」

■震災発生直後のことをお聞かせください

渡邊「先月、東日本大震災の余震である大きな地震が発生しました。大きな揺れを感じた中で、あの2011年3月11日のことをまざまざと思い出しました。本日に大変な災害であり、お世話になった地元建設業者の皆さま、水処理メーカー、設備メーカー、電気機械メーカーの方々に改めて感謝を申し上げます」



## 鯉川復旧に地元業者が活躍

渡邊「震災発生時、県庁の21階で会議をしている最中でした。今までにない揺れを感じ、これは尋常ではないかと直感しました」

■復旧に向けて、まずどのような対応を行ったのでしょうか

渡邊「震災により県の11の浄水場は全て被害を受け、管路についても130カ所被害が確認されました。水道は住民の命に直結するライフラインであり、また工業用水が止まることは企業の存亡に関わります。一秒でも早く復旧することを何よりも優先し、浄水場の被災状況や送配水管の漏水状況の確認、漏水復旧工事への着手、地元建設業者への協力要請をすぐさま行いました」

■全国的に大きな被害が生じた大災害のため、資材や燃料の確保にも苦労されたのではないのでしょうか

渡邊「復旧工事では人材確保とともに資材の確保も重要となります。幸い、企業局では漏水復旧金具の備蓄を以前から行っており、これが早期復旧に大きく役立ちました。さらに補修資材を製造するメーカーにも非常時に備えてストックの確保を要請していただくのを要請しました。メーカーの方々の協力に、改めて感謝を申し上げます」

■事前の危機管理が大いに役立ったという話も聞いています

塚田「東日本大震災のちょうど1年前に発生した桜川市の漏水事故を教訓とし、さまざまな対策を講じていたことも大いに役に立ちました。具体的には、まず管路の補修資材を備蓄するための備蓄基地を県内3カ所に設けました。メーカーへ補修資材の備蓄を要請したのもこの漏水事故が契機でした。また給水タンクの確保も行いました。さらに、災害時協力員制度も創設しました。災害時協力員制度とは県内に居住し、県企業局で10年程度勤務した経験のある方に対し、災害発生時に応援をお願いするものです。いずれも東日本大震災発生時に大きな助けとなりました」

■特に被害が大きかったという鯉川浄水場(神栖市)の復旧についてお聞かせください

渡邊「鯉川浄水場の復旧は地元建設業者の皆さまと大手ゼネコンの協力がなければ不可能だったでしょう。現場に駆け付けて被害状況を目の当たりにした瞬間、経験したことのない未曾有の事態であると実感しました。なによりスピードが求められる緊急復旧は、資材の確保や人材の調達に機動力を発揮できる大手ゼネコンにお願いしました。速やかに現地調査や資材の手配をしていただき、人海戦術で共同溝などのヘッドの撤去を手作業で行い、大変な苦勞をおかけしました。しかし、そのおかげで4月末の連休前に通水することができました」

